

熊本まちなみトラスト 2023 年 1 月例会 ◆記録

日時：1 月 28 日（土）13:30～ 15:30

場所：熊本大学工学部 1 号館 4 階

講師：星野裕司准教授

参加者：会員 10 人／会員外 10 人 合計 20 人

詳細は別紙参加者名簿

熊本まちなみトラスト 1 月例会は星野裕司さんの近著『自然 災害と土木-デザイン』の講義だった。外気のキビシイ寒さはかえって講演会場をヒートアップさせたようだ。同書籍は著者割引で販売され、用意された 12 冊は完売した。

- ◆（竹田副理事長／例会担当）開会のあいさつと参加者への謝辞
（富士川事務局長）本会の企画について一言

◆講演概要

（講演者の意図した筋たて）

1 ご本人のプロフィール

2 著書の大枠

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 第 1 部 序章・1 章 | 土木についての基本的な考え、考え方 |
| 第 2 部 2～3 章 | 事例、実践例 本日は白川・緑の区間を中心に |
| 第 3 部 5 章・終章 | 土木デザインの哲学的考察と今後 |

3 質疑・意見交換

◆講演記録

1. ご本人のプロフィール

- ①市民が横浜市に寄附した畑公園
- ②父親が 70 歳くらいで造園業親方をしていた時の仕事
- ③群馬県沼田市の祖父の家 戦後の開拓農家だった
- ④父の代で東京近郊へ移住し造園業を営む
- ⑤自分はそこで育った 土と離れないことを大事にするようになった

2. 著書の大枠とその中核をなす実践例のなかの白川・緑の区間について

（1）話の前提

- ①カタイ土木構築物からこぼれてしまう価値を拾い集めるのがデザイン
- ②成功した土木デザインとはデクノポーのようなもの、目立たない存在
- ③軽井沢の別荘（設計：吉村順三）にみる建築デザインの完結性

- ④土木は空間的にも時間的にも非自己完結的
- ⑤1997 河川法改正により、環境を保全することが入り、段階的整備や国は基本方針を示し計画は地方で立てる・・・などの新しい考え方が生まれた
- ⑥非完結的な長いプロセスの最後の仕上げがデザインであると同時に未来へ向けたスターターなのかなと思う
- ⑦建築分野と共通するがほとんどの土木の仕事は『リノベーション』なのではないか

(2) 白川・緑の区間 Project について

- ①さまざまな議論、曲折を経て実施設計の段階に至った 立田山への流軸景観
- ②段階的な（計画流量）目標と整備の考え方
- ③護岸用壁のトップ、人に接する部分を自然石（ナベタ石）の仕上げに
- ④側道の歩道と車道の間を緩やかな傾斜の緑地に
- ⑤大樹の移植・・・生育しやすい環境を整えることを中心に考えて
- ⑥Ⅰ工区、Ⅱ工区、Ⅲ工区のなかでは経験の乏しかったⅠ工区は下手だった
- ⑦水際の口ブロックの高低・隙間はランダムに
水位の変化に対して「今日は昨日よりたくさん見えているな」とか・・・
- ⑧地元グループ『白川バンクス』のかかわり
- ⑨独自の事業スキームを構築した
- ⑩イベントが活発化した
- ⑪段階的な嵩上げ（1.5m）で新たな議論を起こしているが、オールオアナッシングではなく、嵩上げしても夜市はやりやすく、とか、夜でも散歩をしやすく、などの新たな提案も出ている
- ⑫竜神橋区間への応用

(3) 土木デザインの哲学的考察と今後

- ①真理（アレーティア＝非ず（ア）＋レーテー（隠す（伏蔵・隠蔽））→開蔵
- ②技術とはモノを創る手段のことではなく、隠されたものを掘り出すこと→開蔵
- ③国家の自然観（事前に挑発する文明）と民衆の自然観（自然を受け入れる文化）
- ④運慶の仁王像に見る制作（ポイエーシス）としての『開蔵』
原木のなかに眠っている造形を掘り出している
- ⑤曾木の滝分水路に見る製作（ポイエーシス）としての『開蔵』
ダイナマイト爆破の後、岩壁にブラッシングすることで顕わになった自然の原型
- ⑥白川・緑の区間 Project に見る制作（ポイエーシス）としての『開蔵』
労わる、手入れする、憩う、遊ぶといった行為から生まれる
かかわりあいをいかに増やしていくか

3. 質疑・意見交換

- (1) 『挑発』をめぐって（田中尚人の提起）

- ①P16の図：3つの輪にある矢印は双方向なのではないか？
- ②P13左下の図（阿賀野川水系縦断図）・・・たくさんのダムと発電所は主として東京圏に電力を供給している。因みに川沿いに走る列車はディーゼル、という皮肉。あくまで人間が自然に対して「ちょっかいを出している」という状況を示すのが『挑発』（だからやはり矢印は一方向）
- ③一方、下の矢印はどうか？・・・自然のめぐみを受け入れる、あるいは自然に寄り添ってかわりあう、という状況（ポイエーシス）を示すので双方向の方が良いかもしれない

（2）現実の土木設計の現場でポイエーシスを成立させる条件（豊永の提起）

- ①白川・緑の区間 Project や曾木の滝分水路に見る製作（ポイエーシス）を可能にするのには、どうしたらよいのか？
- ②少なくとも、その方向でという意識はずいぶん浸透してきたが（多自然工法など）現場の決定プロセスでは必ずしもそうならないことが多い。
- ③時間がかかるのかな。

（3）どれくらい一般化しているのか？（伊藤の提起）

- ①委員会での委員の関わり方で方向が変わることは大いにある。
- ②委員会や協議会方式は一般化しているから、事業スキームが重要
- ③トラストの活動とも共鳴するが、きちんとした哲学が浸透していくともっといい街や地域になっていくと思う
- ④そのような方法（ポイエーシス）をやれたらやりたいという行政の人は増えてきていると思う、取組まなくてよいという人は少なくなった

（4）地盤設計の専門家だが・・・（田上の提起）

- ①デザインがいいと機能面もよい。景観のよい道路は走りやすいと思うが
- ②結果的にそのようなことはあると思う
- ③エンジニアが構造設計をやったとデザイナーが意匠を担当するとよくない、エンジニアとデザイナーがはじめから一緒にやるのが大切

（5）日本の原風景を取り戻したい（中澤の提起）

- ①ウナギがすめるような護岸づくりを期待したいが
- ②国も多自然川づくりを基本戦略としている
- ③技術、計算できないとどうしても従来工法になってしまうが、
- ④山に樹を植えることも含めた『流域治水』の考え方もだいぶ指示されるようになった
- ⑤期待したい

閉会とお知らせ（竹田副理事長）

- ① 1月31日（火）@市民会館大会議室「熊本の町並み変遷についての講演会」講師；
伊藤重剛 KMT 理事長 のお知らせ（熊本市都市デザイン課から）
- ② 3月18日（土）KMT3月例会は玉名高瀬蔵で予定